

てんがく し もの そ せい てんぎよう そ し ぶっか しずか すなわ
天樂を知る者は、其の生や天行、其の死や物化、静かなれば而ち
いん とく おな うご すなわ よう は おな ゆえ てんがく
陰と徳を同じくし、動けば而ち陽と波を同じくすと。故に天樂を
し もの てんおん じんび ぶつるい きせき そ うご
知る者は、天怨なく、人非なく、物累なく、鬼責なし。其の動くや
てん そ しず ち いっしんさだ てんか おう そ はく や
天、其の静かなるや地、一心定まりて天下に王たり。其の魄も祟ま
そ こん つか いっしんさだ ばんぶつ ふく きよせい もつ
ず、其の魂も疲れず、一心定まりて万物も服すと。虚静を以て
てんち お ばんぶつ つう い こ てんがく い てんがく
天地に推し、万物に通ずるを言う。此れをこれ天樂と謂う。天樂
せいじん こころ もつ てんか やしな
は、聖人の心、以て天下を畜うなり。

【大体の意味内容】

うちゆうこうきようがく てんがく たんのう もの せいめいかつどう てんぎよう うちゆう
宇宙交響樂である天樂を堪能できる者は、その生命活動は天行すなわち宇宙のリズムに
じよう おこな し ぶっか いちこじん こせい つほうき ばんぶつ か
乗じた行いとなる。その死は物化すなわち一個人の個性を放棄した万物そのものと化す
ることであつて、いわゆる滅びではない。闇を照らす月影は静かに、太陰の光徳を眠れる
もの そそ うご たいよう も さか ねっぱ よ あまね つた
者たちに注ぐ。ひとたび動けば太陽のごとく燃え盛り、その熱波を世に普く伝える。それ
ゆえに天樂を知る者は、天罰を受けるといことがなく、人間の陥りがちな非道とは無縁
だ。物ごとに煩わされず、鬼神の責め苦を被ることもない。動的な相はまさに天、静的
な相が地であつて、それら諸相の中心が定まってこそ、天下の王となる。魂魄、すなわち
せいしん にくたい や ひへい しんしん ちゆうしん さだ じんぶつ ほんらい おう
精神も肉体も病むことなく疲弊せず、心身の中心が定まれば、身体の機能がその生命を支
える。それと同様にして、万物からも支えられる、そのような人物を本来「王」というの
であつて、生まれつきの身分は関係ないのだ。虚心坦懐な静かさを以て天地に吾が身を披
き、万物と氣脈を通じること能う者、という意味である。こうした生命活動こそが、天樂

である。天樂てんがくとは、聖人せいじんの心こころを以て、天下てんかを養うというものである。

かつてこの授業前の素読本文として、次の文言もんごんを読んだことがあります。

天地あめつちは日月にちげつの魂魄こんぱくなり。

人の魂魄こんぱくは日月にちげつ二神ふたがみの靈性れいせいなり。（吉田兼俱よしかたかねき『神道大意』）

（天てんは太陽たいようの魂たましひであり、大地だいちは月つきの肉体うへだてである。）

人の精神こんしんと肉体うへだては、太陽魂たいようたましひとしての天てんと、月神げつしんが受肉うけうした大地だいちとの靈的結合れいてきけつごう体。

我々の存在われわれの存在は、そうした天地てんちの大いなる存在そぞろとつながった、小宇宙ミクロコスモスなのである。）

今回の本文は、この吉田兼俱の原典でもあるのでしよう。兼俱の場合は日と月といった具体的天体の方を主神として、天地がそこから派生したといった流れでとらえているようですが、人間という小宇宙と、それを包み込む大宇宙との密接なつながりを述べている点では共通しています。

新型コロナウイルス感染のパンデミックにより、緊急事態宣言が発令され、経済的な大打撃を全世界が被ひっています。これが「ウモリ」等の動物から自然に感染してしまったものか、武漢の細菌研究所から流出したもののか、意図的に流されたものか、米軍に持ち込まれたものか、ビル・ゲイツが黒幕の陰謀か、様々なことが言われていますが、いずれにせよこの未曾有みそいうの危機的状況の中で、様々な変革しほりくさくも、多方面で起きています。

テレワークとかオンラインミーティングとかがすっかり日常会話の中で定着しました。今まで自分の意思では実現できなかったことや、変えられなかったことが、何か抗あがえない出来事を通じて一気に実現したり変わったりした、そういう面があることも否定できません。ダンデリオンですらオンライン授業が始まってしまいました。我ながらびっくりです。

きっかけは何であれ、様々なところに宇宙の意思が働いており、一見、自分の意思とは無関係なように見えることに動かされたり生かされたりすることがある。でもそれも本当は、無意識の自分の意思だったのかもしれない。

何か見えない、知ることのできない深いところで、サムシング・グレート何か大いなるものとのつながりを、感ぜざるを得ませんね。